

和歌山だより

平成22年 12月号



川湯仙人風呂（田辺市）

CONTENTS

1. 知事メッセージ…………… P1～P3
2. 和歌山県政トピックス…P4～P7
3. お知らせ…………… P8～P11
4. ふるさと歳時記…………… P12



ヤツデ

「二期目県政への覚悟」

県民の皆様、去る11月28日の知事選挙におきまして、多くのご支持を頂き、引き続き県政の舵取りをさせて頂くことになりました。

今回の選挙は、私がこれまでの4年間に、県民の皆様のご支援・ご協力を頂きながら、職員と一丸となって進めてきた「元気な和歌山」を創造する県の取組に対する「県民の審判」と考えておりましただけに、多数の県民の皆様のご支持を頂きましたことは、本当にありがたいことだと思います。

当選確実の一報を受けた瞬間、これまで私を支えてくださった県民の皆様や職員への感謝で胸が一杯になると同時に、私に与えられた職責の重さに身が引き締まる思いでございました。

私は、選挙期間中、県内各地を隈無く回らせて頂き、たくさんの県民の皆様とお会いしてお声を聴かせて頂きましたが、県民の皆様が、長く厳しい景気低迷の中で、お仕事に、日々の生活に、本当に大変な思いで、歯を食いしばって頑張っておられることをあらためて実感いたしました。

同時に、県庁が一丸となって、この状況を何とかして打破しなければならない、さらには、将来の発展を見据えた実効性のある政策を推進し、何としても「和歌山を元気」にしていかなければならないという強い使命感がこみ上げてまいりました。

私は、この県民の皆様への熱い期待に応えるために、私の持てるあらゆる限りの力を出し尽くし、全身全霊をかけて和歌山県の発展のために取り組んでまいり覚悟でございます。

今後も引き続き、100万県民の皆様と一体となって、二期目の県政を進めていくわけですが、私が知事就任当初に申し上げた「県民の皆様のご意見を聞くことが出発点である」そして、「県民のための県政を行う」という2つの基本姿勢は、いささかも揺らいでおりません。

これまでの4年間も、常にこのことを肝に銘じ、県政に携わってまいりましたが、今後も初心を忘れず、この姿勢を貫いてまいりたいと思います。

私は、選挙で「和歌山を元気に あたたかい改革」をスローガンに掲げ、4つの政策を実行し、実現すると県民の皆様にお約束いたしました。

第一に、「働く場をもっと増やす」こととございます。

本県の人口が100万人を割り込みましたが、その大きな要因の一つが働く

場を求めての人口の流出であり、何としても県内に働く場をさらに増やさなければなりません。この4年間で、企業誘致や中小企業や農林水産業、観光業や建設業など、それぞれの産業毎にさまざまな産業振興策を講ずることによって、かつてはずっと年間5千人程度あった流出を、2千人程度にまで抑えることができましたが、さらにこれらを前進させ、県民の皆様を励まし、最終的にはこれを増加に転じさせることを目標に頑張っていかなければなりません。一段と諸政策のレベルアップを図りたいと思います。

第二に、「県民の安全安心を守る」ことをごさいます。

すべての県民にあたたかい県政でありたい、つらい人々や困っている人々に優しい県政でありたい、これが私の願いであります。

特に、福祉・医療など、県民の生活に密着した安全安心の施策は、一歩たりとも後退させるわけにはいきません。さらに、これを強化するため紀州3人っこ施策や県立医大の定員増など、さまざまな政策的でこ入れをしてまいりましたが、県民の皆様の身の回りで起こっているさまざまな出来事に常に感性を研ぎ澄ませながら、きめ細かい対策を講じ、今後もさらなる充実を図ってまいりたいと思います。ワクチン接種、地震津波対策、中小河川の浸水対策、高齢者施策、過疎生活圏対策など課題は目白押しです。

第三に、「和歌山の活力と品格を高める」ことをごさいます。

県の将来を考える時、忘れてはならないのが、将来を担う「人づくり」であります。

和歌山で学び、育った子どもたちが、和歌山で生まれたことを誇りに思い、やがて大人になった時に、「いいやつだ」と高く評価され、それぞれの個性を發揮しながら、和歌山のために活躍してくれる、そんな子どもを育てる教育を進めたいと考えております。

さらに、子どもだけではなく、すべての県民の皆様に和歌山に住んで良かったと感じて頂けるように、スポーツ・文化の振興、自然環境、歴史・文化資源の保全、都市の再生等、活力と品格のある和歌山づくりを進めてまいります。

第四に、「県民の伸びるチャンスを増やすインフラを充実する」ことをごさいます。

紀伊半島という国土幹線軸から離れた不利な立地条件によって、これまで、わが県の道路整備は遅れてきました。

そして、この道路整備の遅れが、発展に必要な企業進出などの大きな障害要

因となり、本県の伸びるチャンスが長年奪われてまいりました。

特に、県民の皆様の悲願である紀伊半島を一周する近畿自動車道や紀北の主要都市を結ぶ京奈和自動車道の整備の早期実現に向けて、今後も引き続き、国に対して事業促進を強力に働きかけてまいりますとともに、府県間道路や県内幹線道路などの整備も強力に進めたいと思います。

特に、一期目に取り組んできた「X軸ネットワーク道路」につきましては、概ね整備が完了しましたので、引き続き、各生活圏の「背骨」にあたる県内の主要河川沿いの道路を「川筋ネットワーク道路」として重点的に整備を進めてまいりたいと考えています。

今、我が国は、人口減少や少子高齢化の問題、地球規模での環境の問題等、長年の懸案課題に加え、急激な円高が我が国経済に与える影響や領土問題も含めた国際関係の緊張の高まり等、喫緊の課題が山積し、重要な局面を迎えております。その課題は、特に本県のような地方圏に対し試練を与えます。しかし、乗り越えられない試練はないとの覚悟のもとに、これに全力で、かつ最も効率的、効果的な施策をもって立ち向かわなければなりません。

この4年間、県民のすべての方々のご努力によって、和歌山は新しい時代を迎えつつあります。不祥事の不名誉はすすぎ、県財政は健全の方向へ向かい、安全安心は少しずつ向上しつつあり、また、経済の指標にも過去とは違った改善の傾向も出てまいりました。しかし、まだまだです。まだまだ試練は続きます。

しかし、県民の皆様が力を合わせ、ここまで来られたではありませんか。それならば、さらに力を合わせてもっと進みましょう。

和歌山を元気に、あたたかい改革で、そして100万人の県民の皆様が力を合わせて、常に前を向いて、ひたむきに取り組みましょう。



11月29日、和歌山県知事選挙において当選した仁坂知事が初登庁しました。職員から花束を受け取った知事は、「また、仕事だ！みんなと一緒に仕事だ！」と笑顔を見せました。

今月の和歌山県政トピックス

* 最近の県政の動きや県内の話題などをピックアップしてお届けします。

●関西広域連合発足！！ 仁坂知事は副広域連合長に就任

・和歌山県を含む関西の7府県（滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、和歌山県、鳥取県、徳島県※）で設立をめざしていた「関西広域連合」が、12月1日に総務大臣許可を得て、正式に設立しました。



・関西広域連合は、本部事務局とは別に、広域防災対策や広域観光・文化振興などの7分野を各府県で分担し、関西全体の広域行政を担う責任主体として活動します。また、今後、国の出先機関の廃止による権限移譲を国に要請し、国と地方の二重行政の解消に取り組んでいきます。

【関西広域連合で設立当初に取り組む事務】

- 広域防災対策（兵庫県担当）：災害発生時の相互応援体制の強化、救援物資の共同備蓄など
- 広域観光・文化振興（京都府担当）：広域観光ルートの設定、海外観光プロモーションの実施など
- 広域産業振興（大阪府担当）：合同プロモーション・ビジネスマッチングの実施など
- 広域医療（徳島県担当）：広域的なドクターヘリの配置・運行など
- 広域環境保全（滋賀県担当）：温室効果ガス削減のための広域取組など
- 資格試験・免許等（大阪府担当）：准看護師、調理師、製菓衛生師の試験実施・免許交付など
- 広域職員研修（和歌山県担当）：広域的な視点を持った人材を育てるための研修の実施

・12月4日には、広域連合長選挙があり、兵庫県の井戸知事が無投票当選されました。また、井戸広域連合長の指名により、仁坂知事が副広域連合長に就任しました。



・仁坂知事は、副広域連合長の就任にあたり、「私の役割は、井戸広域連合長を助けることと、広域連合がうまく機能するようにすることです。関西には人口の大きなところだけでなく人口の小さなところもあり、そういうところの意見を少しでも全体の中に盛り込めたら良いと考えています。今後は関西広域連合の活動が活発になるようにしていきたい。」とあいさつしました。

・引き続き開催された第1回関西広域連合委員会（参加府県の知事で構成する合議機関）において、「重要事項は全会一致とする。」などの仕組みが承認されました。この仕組みは、かねてから仁坂知事が提案していたものであり、これにより、大きな府県の意見に引っ張られることなく、本県のような人口規模の小さい県の意見を広域連合の運営に反映することができます。

●平成22年度わがまち元気プロジェクト 第2弾！！

- ・ 地域資源を活用した「まちおこし」に積極的に取り組む市町村等を支援する「わがまち元気プロジェクト」の本年度3番目（通算9番目）として、「“食育のまち紀の川市”農業6次産業化プロジェクト」への支援を決定しました。
- ・ 紀の川市は県内有数の農業生産地であり、農産物販売高全国1位を誇る「めっけもん広場」は連日、県内外からの多くの買い物客で賑わっています。また、食育拠点として、地元食材による「健康バイキング」が楽しめる「青洲の里」も大人気です。
- ・ 本プロジェクトでは、「めっけもん広場」での野菜や果物の加工品開発や販路の開拓をより一層進めることにより、農業者や農産加工グループの所得向上を図るとともに、「青洲の里」のレストランの拡充（49席→79席）や、「めっけもん広場」へ買い物に訪れる方々を「青洲の里」や地元飲食店に誘導する仕組みを進める等、紀の川市の強みを活かした「まちづくり」を進めていきます。



めっけもん広場



青洲の里



「紀の川ふるふる娘」：紀の川市のフルーツキャラクター

紀の川市の特産品であるフルーツのキャラクターで、左から「さくふる・かきふる・じくふる・いちごふる・ももふる・きうふる」ちゃんです。

●第4回きのくにロボットフェスティバル2010開催！！

・12月19日、御坊市立体育館において「第4回きのくにロボットフェスティバル2010」が開催されました。

・「きのくにロボットフェスティバル」は、御坊市にある和歌山工業高等専門学校が全国高専ロボコンで2年連続準優勝をしたのを契機に、平成19年度から開催しています。

小中高校生がロボットコンテストに参加することや、全国高専ロボコン優秀校、企業等の最先端ロボットを体験することで、科学技術への関心を高め、将来の日本の「ものづくり」を支える人材を育成することを目的としています。

・今回の「きのくに学生ロボットコンテスト」では、小中高校生の部門別にトーナメント競技が開催され、和歌山県内の各ブロック、近畿2



府3県及び福井県での地区予選を勝ち抜いた選手たちが、工夫を凝らした自作ロボットを操り、熱戦を繰り広げました。

・このほか会場では、日本が誇る研究機関や企業の最先端技術を駆使したロボット、全国高専ロボコン優秀校等のパフォーマンスや展示があり、さらに、海外からも中国成都電子機械高等専科学校や韓国ロボットが来場され、実演がなされるなど、国際色豊かな大会となりました。

●第63回全国高校バレーボール高等学校選手権大会出場校壮行式開催！

・12月14日、全国高校バレーボール高等学校選手権大会に出場する、開智高校（男子代表16年連続16回目）と和歌山信愛女子短期大学附属高校（女子代表2年連続28回目）の健闘を祈念するために壮行式を開催しました。



・仁坂知事は、「和歌山県を背負って出場いただいている皆さんには、百万人の県民が応援している。頑張ってください」と両校を激励しました。

・開智高校の和中主将は、「自分たちの力を発揮してがんばります」と力を込め、和歌山信愛高校の原主将は「最後まであきらめず、一生懸命がんばりたい」と大会に向けての意気込みを語りました。

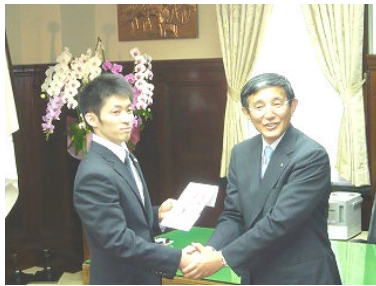
・大会は1月5日から9日までの間、東京体育館（東京都渋谷区）において開催されます。初戦は、開智高校が岡山東商（岡山県）、和歌山信愛高校は誠修（福岡県）との対戦となります。みなさん応援をお願いします。

●第42回世界体操競技選手権大会・2010広州アジア競技大会入賞者の皆さんが県庁を訪問！

・12月16日、今年10月オランダで開催された「第42回世界体操競技選手権大会」に、日本体操界で初となる兄妹出場を果たすとともに、男子団手で銀メダルを獲得した田中和仁選手と、女子団体5位、エレガンス賞の獲得、11月に北京で開催された「2010広州アジア競技大会」で団体・跳馬で銀メダル、個人総合で銅メダルを獲得した田中理恵選手及び、同大会のカヌー競技カナディアンシングル 200m で銅メダルを獲得した阪本直也選手が仁坂知事を訪問しました。

・田中兄妹及び阪本選手から、国際大会での様子や大会入賞の報告が行われ、知事からは、これまでにどのような練習をしてきたのか、世界とのレベルはどうであったかなど意見交換が行われました。

・最後に、知事から選手達に対し、記念品の目録贈呈と、「皆さんの今後益々の活躍を祈念します。是非頑張ってください。」と応援メッセージを送りました。



【田中和仁 選手】



【田中理恵 選手】



【阪本直也 選手】

●全国高等学校総合体育大会（ラグビー・駅伝競技）への県代表出場選手が県庁を訪問！

・12月13日、全国高等学校総合体育大会のラグビー競技と駅伝競技に出場する和歌山県代表選手及び関係者が仁坂知事を訪問しました。知事は、「和歌山県の代表として、全国の舞台で頑張ってきて下さい。」と応援メッセージを送り、ラグビー競技に出場する和歌山工業高等学校の梅本主将は、「これまで20年間初戦突破できていないので、自分たちが歴史を塗り替えます。」と力強くコメントしました。

・駅伝競技に出場する男子代表の和歌山北高等学校の塩路主将は「チームが一致団結し、10位台を目標に練習の成果を発揮して頑張りたい。」と、女子代表の日高高等学校の宮崎主将は「日頃の練習の成果を発揮し、感謝の思いを胸に頑張ります。」と決意を述べました。

・大会は、ラグビー競技が12月27日から近鉄花園ラグビー場（東大阪市）で開催され、初戦は、28日に仙台育英学園高校（宮城県）と対戦します。高校駅伝は26日に京都で開催されます。みなさん応援をお願いします。

首都圏で「そろそろ和歌山に行ってみようキャンペーン」を実施！！

1月後半の2週間、和歌山ADトレイン（JR山手線広告貸切電車）の運行をシンボルに、山手線沿線を中心に各種PRイベントを実施します。また、各種マスコミ媒体に和歌山県の情報を露出させることにより、首都圏でのPRイベントと連携した相乗効果の高いキャンペーンを行います。そして、首都圏在住の和歌山に行ったことがない人、日頃行ってみたいと思っている人に対して、「そろそろ和歌山に行ってみませんか？」を提案し、本県への誘客に繋がります。



■キャンペーンオープニングイベント

・キャンペーンのオープニングイベントとして、首都圏のマスコミ、旅行エージェント、百貨店バイヤー等物流関係者 300 名を招待し、和歌山の魅力を披露するプレゼンテーションイベントを開催します。（*当日、USTREAM でイベントの様態を配信予定）

日 時：1月14日（金）19：00～21：00 六本木アカデミーヒルズ40F
内 容：和歌山県知事プレゼンテーション、各市町村等によるプレゼンテーションほか

■和歌山ADトレイン（JR山手線）

・和歌山の魅力を伝える広告とともに、首都圏旅行エージェント6社の和歌山旅行商品ポスターを1編成11車両に掲出し、1月16日（日）～31日（月）の2週間運行します。

- ・協賛社：JTB、KNT、クラブツーリズム、阪急交通社、JAL ツアーズ、南海国際旅行
- ・乗客数：約155万人（1編成2週間）を想定

【中吊り広告】



■キャンペーンイベント（概要）

○和歌山PRイベント（抽選で和歌山旅行等が当たるアンケート調査も合わせて実施）

1月16日（日） JR山手線全駅（29駅）での一斉PR

1月23日（日） JR山手線主要駅（新宿・渋谷・有楽町）での集中PR

○旅行AGT首都圏営業店舗店頭キャンペーン

- ・首都圏旅行AGT首都圏営業店舗（JTB100店舗、KNT50店舗）での集中PR（店頭バナー広告、観光パンフレット設置等 キャンペーン期間中）
- ・代表的な店舗でのキャンペーンイベントの実施
 - 1月15日（土） KNT キャンペーン（有楽町支店、新宿支店、池袋支店）
 - 1月22日（土） JTB キャンペーン（池袋支店、新宿支店、上野支店）

○和歌山公開講座 「和歌山てらこや」の集中開催

- ・和歌山の魅力を知ってもらうための公開講座を集中実施

日時：1月25日（火）～28日（金）各日14：00～

場所：八重洲ブックセンター 8F ギャラリー

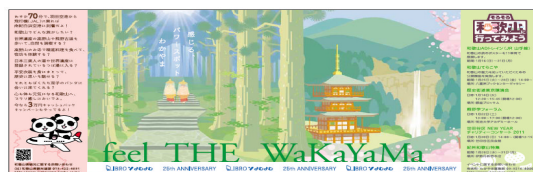
内容：道成寺絵巻、小栗判官照手姫物語、高野山修行体験（瞑想（阿字観）
写経・法話）

○首都圏書店プロモーション

日時：12月20日（月）～1月31日（月）

内容：首都圏の代表的な書店（本店、支店）でのブックカバー配布等によるPR
（紀伊國屋書店新宿本店、丸善丸の内本店、リブロ本支店 全55店舗）

【ブックカバー】



○関連イベント等

- ・ふるさとまつり東京2011 【1月8日（土）～16日（日）：東京ドーム】
- ・歴史街道シンポジウム 【1月18日（火）：銀座ブロッサム】
- ・熊野学フォーラム 【1月22日（土）：明治大学アカデミーホール】
- ・プレミア和歌山PR 【1月22日（土）：品川駅構内、1月23（日）秋葉原駅構内】
- ・紀州和歌山特集 【1月26日（水）～31日（月）：伊勢丹本店】
- ・世田谷区NEW YEAR チャリティコンサート 【1月30日（日）：世田谷区民会館】
- ・2011 体験・学び・感動の修学旅行セミナー 【2月8日（火）：飯田橋・メトロポリタントホテル】

● わかやま観光情報サイトに「わかやま〇旅」ページがオープン！！

・ホームページ「わかやま観光情報」に、「わかやま〇（まる）旅」ページをオープンしました。これは、趣味や嗜好などによって多様化する個人の旅行ニーズに対応し、和歌山県を旅行先として選んでもらえるよう、和歌山の魅力をテーマごと発信するものです。

・〇（まる）の中には旅のテーマが入ります。新たに作成した「てくてく旅」や「湯の旅」をはじめ、既存の「花旅」、「食旅」をまとめて掲載しています。今後もさらにテーマを増やしていく予定です。是非ご覧下さい。

- ・湯の旅 — エリア別に温泉スポットをご紹介 —
- ・食旅 — 動画も交えて和歌山グルメをご紹介 —
- ・花旅 — 四季折々の花や木の観光スポットをご紹介 —
- ・てくてく旅 — 動画も交えて和歌山のおすすめウォークコースをご紹介 —

こちらが「わかやま〇旅」です！是非ご覧下さい。



和歌山の旬のこだわり情報をお届けします

☆クリスマスオレンジ☆



ジングルベル、ジングルベル、鈴が鳴る～♪街はキラキラと輝くクリスマス色に染まり始め、なんだかウキウキしてきます。さて、みなさんは“クリスマスオレンジ”という言葉聞いたことはありますか？

カナダでは、温州みかんは「クリスマスオレンジ」もしくは「クレメンタイン」と呼ばれ、冬の果物として食べられています。農林水産省によると、温州みかんはクリスマスシーズンの到来を告げる風物詩になっているようです。

さあ、私たちもクリスマスに“わかやまのみかん”を食べましょう！

生産量日本一！わかやまのみかん

和歌山県は、みかんの生産量が全国1位！（平成21年度農林水産統計）温暖な気候と水はけの良い傾斜地など恵まれた条件で栽培されるみかんは糖度が高く、濃い味に仕上がります。

「紀伊国屋文左衛門」が嵐にもかかわらずみかんを舟に満載し、江戸へ運んでいったという話はとても有名です。その故事にちなみ、10月24日品川駅で紀伊国屋文左衛門に扮した仁坂知事が江戸（東京）のみなさんにみかんを配り、大々的にPRしました。



美人シリーズ “冬はみかん美人”

みかんを2個食べると、1日に必要とされるビタミンCを摂取することができます。冬はみかんで美肌美人♪免疫力を高める効果も期待できるので、風邪予防にもいいかもしれませんね。

また、ガンに対する抑制効果が高いとされているβ-クリプトキサンチンやお腹に優しい食物繊維も含まれています。特に、みかんの実を包んでいる薄くて白い袋は「じょうのう膜」と呼ばれ、食物繊維などが豊富に含まれているので、袋ごと食べてください！



忘年会シーズン到来！みかんジュースが大活躍!?

もうすぐ忘年会シーズン。みなさんの肝臓の状態は大丈夫でしょうか？今年7月、京都府立医科大学西野教授によって、みかんジュースを継続的に飲むとアルコール性肝障害の予防につながる可能性があることが発表されました。

みかんをそのまま食べるもよし！毎朝みかんジュースをゴクゴク飲むのもよし！今年の冬も、みかんで健康に過ごしましょう♪



Noël Arida Sweets Contest

「もう一度、冬の風物詩であるみかんの素晴らしさを思い出してほしい」そのような思いから、有田市が音頭をとり、Noël Arida Sweets Contest 実行委員会が設置されました。冬のスイーツ『クリスマスケーキ』と冬の定番の果物『みかん』をコラボさせる“新クリスマススイーツ”作りを企画！今回、私新人 T が11月3日に開催されたコンテストの取材に行きました！

すると…会場での抽選で選ばれ「一般審査員」に！一次審査を通過した10作品(応募総数127作品)を審査委員長である有名なパティシエの鎧塚俊彦さんとともに審査をしました。果たして結果は…。



みなさんの熱い
想いが伝わって
きます。

『Arida Mandarin』

グランプリを受賞したのは大阪府・中村仁美さんの『Arida Mandarin』(写真右)。みかんのコロシとしたまるみを活かしながら作ったそうです。中をスプーンですくってみると、黒蜜のジュレやバニラムースが濃厚でおいしい。みかんと一緒に食べると、みかんのほのかな甘酸っぱさとのハーモニーが絶妙でした。

最初は、みかんを使ったスイーツがどのようになるのか想像もつきませんでした。こんなにもステキに変身することができるなんて驚きました。

今回のコンテストのグランプリ作品等は、12月15日～1月末の期間限定で有田市内のお店(レピマルカ、クスギン洋菓子店)で販売されます。クリスマススイーツで新たな一家団欒のひとつの始まりです♪



鎧塚さん(中央)と
受賞者のみなさん

詳しい結果は→ <http://www.city.arida.lg.jp/kikaku/noelarida.html>

～ 歴史と伝統を誇る・由緒ある和歌山の社

初詣参拝客数が多い神社 ～

***和歌山県内の初詣参拝客（ベスト3）（2010年参詣者数）**

1位 日前神宮・国懸神宮（和歌山市） 約 330,000人

・紀州一の宮、日前宮。境内に並んで建っている、向かって左側の「日前宮」（神体は日像鏡（ひがたのかがみ））と向かって右側の「国懸神宮」（神体は日矛鏡（ひぼこのかがみ））、両者をあわせて日前宮と呼びます。（日前・国懸宮とも）。古代からある神社で「日本書紀」にも「日前神」として記されています。県立向陽中・高校が日前の森に隣接しています。

2位 熊野本宮大社（田辺市本宮町）約 303,000人

・かつては、「大斎原（おおゆのはら）」にあった熊野本宮大社。熊野川・音無川・岩田川の合流点にある中洲にあったのですが、明治22年の洪水で、現在の所に移転されました。

・向かって左側の社殿には、牟須美（むすみ）・速玉（はやたま）の両神。中央は家津美御子神（けつみみこのかみ）。右側には天照大神（あまてらすおおみかみ）が祀られています。



3位 熊野速玉大社（新宮市）約 170,000人

・「新宮」という地名は、神倉山の神倉神社に祀られていた神を今の社地に移したことから、「元宮」に対して「新宮」と呼んだことからだといわれています。

・熊野川河口にある熊野速玉大社は明治16年に炎上し、後再建されたもの。神木の「ナギの木」の大樹は天然記念物に指定されています。大社敷地内にある神宝館（しんぼうかん）には、1,200点にもものぼる国宝が保管展示されています



～編集後記～

早いもので今年も残すところ、あとわずかとなってまいりました。皆様方にはいかがお過ごしでしょうか。師走という言葉に、例えられるように、年末は、大変慌ただしく過ぎます。県庁も12月28日には仕事納めを行います。

さて、和歌山県の今年一年を振り返ってみますと、本当にいろいろな動静がありました。

全国植樹祭が来年の5月22日に開催されることが決定しました。国体の気運が盛り上がりましてまいりました。県内道路網の整備が進んできました。

県出身のスポーツ選手の大活躍がありました。日本とトルコの絆がさらに深まりました。本県が誇る先人の顕彰を行いました。観光と産品を国内外に広く発信しました。

こうして、一つ一つ挙げますと枚挙に遑がありません。

県政トピックスでお知らせいたしましたように、仁坂知事の二期県政がスタートいたしました。知事が言う、これまでの着実な歩みをさらに進めていかなければなりません。平成22年の一年の成果を礎に、職員が一丸となってあらゆる施策を進めてまいりますので、今後ともご支援ご協力をお願いいたします。

寒さが厳しくなる折、皆様方には風邪など召さぬよう、お体に十分気をつけてお過ごし下さい。そして来るべき来年が皆様にとりまして、素晴らしい年でありますことを心からお祈りいたします。

知事室秘書課長 藤川 崇

★「和歌山だより」Web版を和歌山県ホームページにアップしています。Web版ならではの美しい画面を楽しんで頂けますので是非ご覧下さい。

和歌山だよりに対するご意見・ご感想をお聞かせ下さい。また、皆様がお持ちの和歌山に関する情報をご提供下さい。今後、皆様のお声を紙面づくりに活かしていきたいと考えています。

(下記のFAX(様式自由)、E-Mail等でお願ひします。)

■FAX 073-422-4032

■E-mail e0001003@pref.wakayama.lg.jp

和歌山県のホームページ

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/>

ふるさと和歌山応援サイト <http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/furusato/>

*個人情報につきましては、「和歌山だより」の発行以外の目的には、使用いたしません。



2010年(平成22年)12月 NO.33

和歌山県 秘書課

〒640-8585 和歌山県和歌山市小松原通1-1

TEL 073-441-2022